



# なばりんく

6・7月号

名張地域『よってだくこ3号店』



## まちびと探し

今月の  
まちびとさん



傾聴ボランティア  
そえの かずこ  
副野 加寿子さん (43)

身体障害者支援施設第1はなの里で週2~3回、利用者の話を聴く傾聴ボランティアとして14年間活動している副野さん。

活動のきっかけは、20年前にはなの里で障がい者を対象として開かれたパソコン教室に参加し、その時に利用者の話し相手になってくれないかと声をかけてもらったことだったという。

はじめは“自分にできるのかな”と不安になったり、言葉でのコミュニケーションが難しい人との関わりに戸惑ったりしたが、今では表情でコミュニケーションを図ることができ、楽しくボランティア活動を続けているとのこと。また、傾聴のみでなく、食事の介助や入浴後の利用者の髪を乾かしたり、おやつのお茶を配ったり、自分にできることをしている。

“活動をしていてよかった”と1番感じることは、利用者と話をしていてだんだん相手の表情が明るくなる時。副野さんは“今後も自らの障がい経験などを活かして、相手に寄り添いながら、可能な限り活動を続けていきたい”と話された。

最後に、これからチャレンジしてみたいことは？と尋ねると過去にしていたバンド活動で得たキーボードの技術を活かして何らかのかたちでボランティアをしてみたいと笑顔で答えてくれた。

# 地域ピックアップ!

## 《箕曲地域》 箕曲小学校・箕曲保育園田植え



5月23日(金)、箕曲小学校(全学年)と箕曲保育園(4歳児クラス)の子どもたちが夏見で田植えに挑戦しました。

箕曲小学校の児童たちは、地域住民の方に田植えの説明を受けてから、班にわかれて順番に田んぼの中へ入っていきました。始めは「わあ〜」「ぐちょぐちょする」と声をあげていましたが、後ろ向きに下がりながら自分の足跡をならして、教えてもらった通り、上手に田植えをしていました。終わった後は、みんな口を揃えて「楽しかった」と話していました。12月に行われる体験学習では、田んぼに立てるカカシも製作予定だそうです。

箕曲保育園の幼児たちは「自由に植えていいよ」と言われ、思い思いの場所に苗を植えたり、泥にまみれて遊んだり、泥の感触を楽しんでいました。

この行事は、PTAや地域の方々の協力のもと、30年以上前からの恒例行事になっています。植えたのは餅苗で、300kgほど収穫予定です。収穫した餅米は学校や公民館祭りでの餅つきに使われます。「子どもたちにとって、泥の感触が大人になっても思い出になる。地域住民とのふれあいや物作りの大変さを体験できる。」と箕曲公民館館長さんが話されていました。



## サロン活動紹介

### 《名張地域》 よってだ〜こ3号店



よってだ〜こ3号店は、平成17年1月から高齢者の引きこもり防止や、地域での高齢者が集まる場所を作ることを目的に開催しています。

みんなで気軽に集まり、スタッフが何をやるのか決めるのではなく、参加者の声を聞いて活動しています。また「よってだ〜こ」という名前は、みんなが気軽に寄ってもらえるようにという意味の名張の方言で、名張地域にある全てのサロンで使われています。

5月22日に開催したサロンでは、折り紙でスイカやなすび、リングなど、色鮮やかな七夕飾りを作っていました。みんな協力しながら和気あいあいと楽しそうな雰囲気でした。この飾りは、子どもたち100名が集まる名張地区民児協の「子育てひろば」の七夕イベントで使われます。参加した方にお話を聞くと、「ここに来ると気持ちが晴れて笑顔になれる」「毎回楽しみにしている」などの声がありました。

スタッフは一人でも多くの方に来ていただきたいと考えています。

**開催日時: 毎月2・4木曜日10時~**  
**開催場所: 豊後町集会所**



# トーク ボランティアリレーTalk!

すえなが こうじ

末永 孝治

(日本拳法永心会 会長)



今年の7月に満80歳になりますが、毎週月曜日には道着に着替え、名張市武道交流館いきいきにて日本拳法なるものを幼児から成人に指導しております。日本拳法を簡単に説明しますと、剣道のような防具とグローブを装着し、柔道の投げ技に突きや蹴り等の打撃を加えた安全かつ、実戦的な武道であります。

平成6年に「日本拳法名張会」を発足させ今年で20周年を迎えたのを機に、思いやりのある優しい心、何事にも負けない強い心をいつまでも持ち続けて欲しいという想

いを込め「日本拳法永心会」と改称しました。ボランティアという意識はありませんが、私が62年続けてきたこの「日本拳法」を次世代に継承し、また道場生が「日本拳法」を自身の生涯スポーツとして私の歳になるまで永く続けてもらえれば嬉しいですね。



## 音楽工房

### 「名張市民の歌・あなたとわたし」



6・7月の

“みんなでいっしょに  
唄いませんか”

開催日：6月12日(木)  
7月14日(月)

上記いずれも

- ◆時間：10:30～11:30
  - ◆会場：名張市総合福祉センター  
ふれあいホール
  - ◆対象：市内在住の  
子育て中の親子から  
高齢者まで
- ※参加費無料・申込不要

♪三国の山に 霧はれて よろこび歌う 名張川～  
梅雨の季節になりました。皆さん、お元気ですか？

今年の名張市制が60周年を迎えました。3月22日(土)にはADSホールで「60周年記念式典・未来への躍進コンサート」が開催されました。その中で「名張市民の歌・あなたとわたし」が演奏されました。



ところで名張市民の歌はご存知ですか？この歌には三国山や名張川、茶臼山が出てきます。身近な場所が歌われていて自然豊かな名張の風景が感じられます。名張市の歴史を振り返り、未来へ伸びる町に祈りを込めながら……。

一緒に唄いませんか？お待ちしております。

### 介護者サロン “さくら喫茶”

6・7月は小物作り

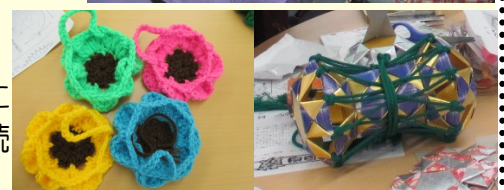
開催日：毎月第3水曜日

- ◆時間：13:30～小物作り  
14:00～お茶会  
15:00 終了
  - ◆会場：福祉まちづくりセンター  
(イオン名張店)3階
  - ◆対象：市内在住で、介護をされている方、介護についての悩みや相談のある方
- ※参加費無料・申込不要

### さくら喫茶4・5月の様子

4月は「エコたわし作り」5月は「つづみ作り」をしました。介護の話をしたり、趣味の話をしながら、楽しく制作しました。皆さん物作りに夢中になり時間を忘れて取り掛かっていました。物作りの後は、ほっと一息お茶とお菓子でくつろぎました。

介護をしている皆さん、日頃介護に時間をとられているかと思いますが、自分の時間・趣味の時間も大切にしましょう。次回は「つづみ作り」の続きをします。ぜひご参加ください。



## 手づくりレシピ紹介

## 「ゴキブリ退治用 ホウ酸団子」

番外編! ※今回のレシピは食べられません!

～サロンや地域の集まり、ご家庭で作ってみませんか～

## 材料(150個以上)

ホウ酸…250g  
小麦粉…250g  
玉ねぎ…大さじ1杯  
(すりおろしたもの)  
砂糖……大さじ2杯  
牛乳……適量

## 『作り方』

- ①. ホウ酸・小麦粉・すりおろした玉ねぎ・砂糖に耳たぶ位の柔らかさになるよう牛乳を加えていき、よく混ぜ合わせる。
- ②. ①を直径2cm位の団子にする。団子同士がくっつかないように小麦粉をまぶしながら丸める。
- ③. 天日で乾かす(両面で約2～3週間)。
- ④. 出来あがった団子をアルミはくで作った皿やマッチ箱に入れ、ゴキブリのいる場所や通り道においておく。



- ◆効果は、約1年間。
- ◆作る時期は、玉ねぎの旬でゴキブリが出る前の4～5月が良い。
- ◆目安は、流し台の下に4～5個隔におくとよい。
- ◆町ぐるみで作って置いておくと、隣の家からゴキブリが飛んできてくることもない。

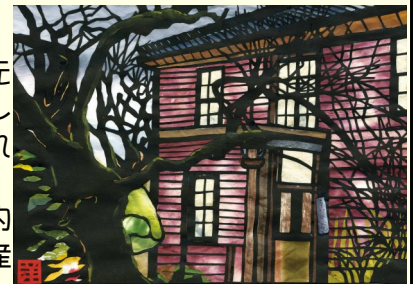
☆レシピ提供・協力:よってだ〜こ7号店 ☆名張地域で活動しているボランティアグループです。毎月第3火曜日には近隣の女性が担い手となって高齢者のためにサロンを開催。第3水曜日はカレーライス&サラダを提供しています。

## 名張のむかしを歩もう!



6月は梅雨の季節です。梅雨の花と言えばやはり紫陽花ですね。紫陽花で思い出す印象に残る話があります。開所当初から「旧細川邸やなせ宿」にお世話になり、そして時々食事に訪問して、よく「やなせ宿」を知っているつもりでしたが、ある時川瀬さんの切り絵を見て、どこか私の思う「やなせ宿の中庭」とは、違和感があり作者の川瀬さんに聞いたところ中庭にある「蔵」のみでは絵にならず、たまたま6月、作品に取り掛かっていたため紫陽花を切り絵に植えインパクトを与えたとの返事です。紫陽花により中庭の「蔵」が生き、作者のセンスの良さが伺えます。「やなせ宿」に、もう少し四季折々の草花を植えて、皆様が楽しめる場所になればと思うこともしばしばあります。

一方以前より自転車などで旧名張町を散策して、いつも元町にある古びた白い木造2階建物が気になっていましたが地元の人配の人に聞いたところ大正から昭和にかけての医院跡と教えられ、ほとんどして見学をする機会を得ました。室内は映画かテレビ世界しか見たことのない、これが当時の医院跡かと感銘しました。今は見学をすることができませんが多分100年ほど前の貴重な器具や書物などが数多く保存されていると思います。同建物及び内部の資料などは名張の財産です。「旧細川邸やなせ宿」などを含め名張の文化遺産として永く大切に残して欲しいです。 おきつもを語る会 杉本 博資



## 協力:おきつもを語る会

(同会は、名張の昔について、見聞や体験で得た習慣、行事など座談会を通じて参加者と共に語り合い、資料にまとめ冊子にするなどして、多くの人に名張の歴史や文化を伝える活動を行っているボランティアグループです。)

## 発行:社会福祉法人 名張市社会福祉協議会

名張市丸之内79番地  
名張市総合福祉センターふれあい内  
電話番号 63-1111  
FAX番号 64-3349  
ホームページ <http://www.nabarishakyo.jp>  
Emailアドレス [volunteer@nabarishakyo.jp](mailto:volunteer@nabarishakyo.jp)

発行部数:1,300部

## 《設置場所、協力店舗》

総合福祉センターふれあい、福祉まちづくりセンター、市民情報交流センター、各公民館・市民センター、こども支援センターかがやき、武道交流館いきいき、名張郵便局、錦生簡易郵便局、近畿大学工業高等専門学校、名張市役所、名張市立病院、名張市立図書館、総合体育館、協力店舗等(吉野豆腐、はなびし庵、矢の五薬局夏見店、山平たばこ店、cafésmjuk、booksアルデ、サロンきずな、やなせ宿、ひまわり書店、大和屋、東整形外科、ヲワリヤ本店)

《名張市内の中学校では、クラス掲示をさせていただいています。》

★地域福祉活動情報受付中! 『地域で子どもや高齢者と一緒にこんな活動しています』『サロンでこんな活動しています』『地域でこんな福祉活動している人がいます』などなど……。情報をお知らせください。社協職員が取材に伺い情報発信していきます!

次のなばりんくは8月1日発行予定です。